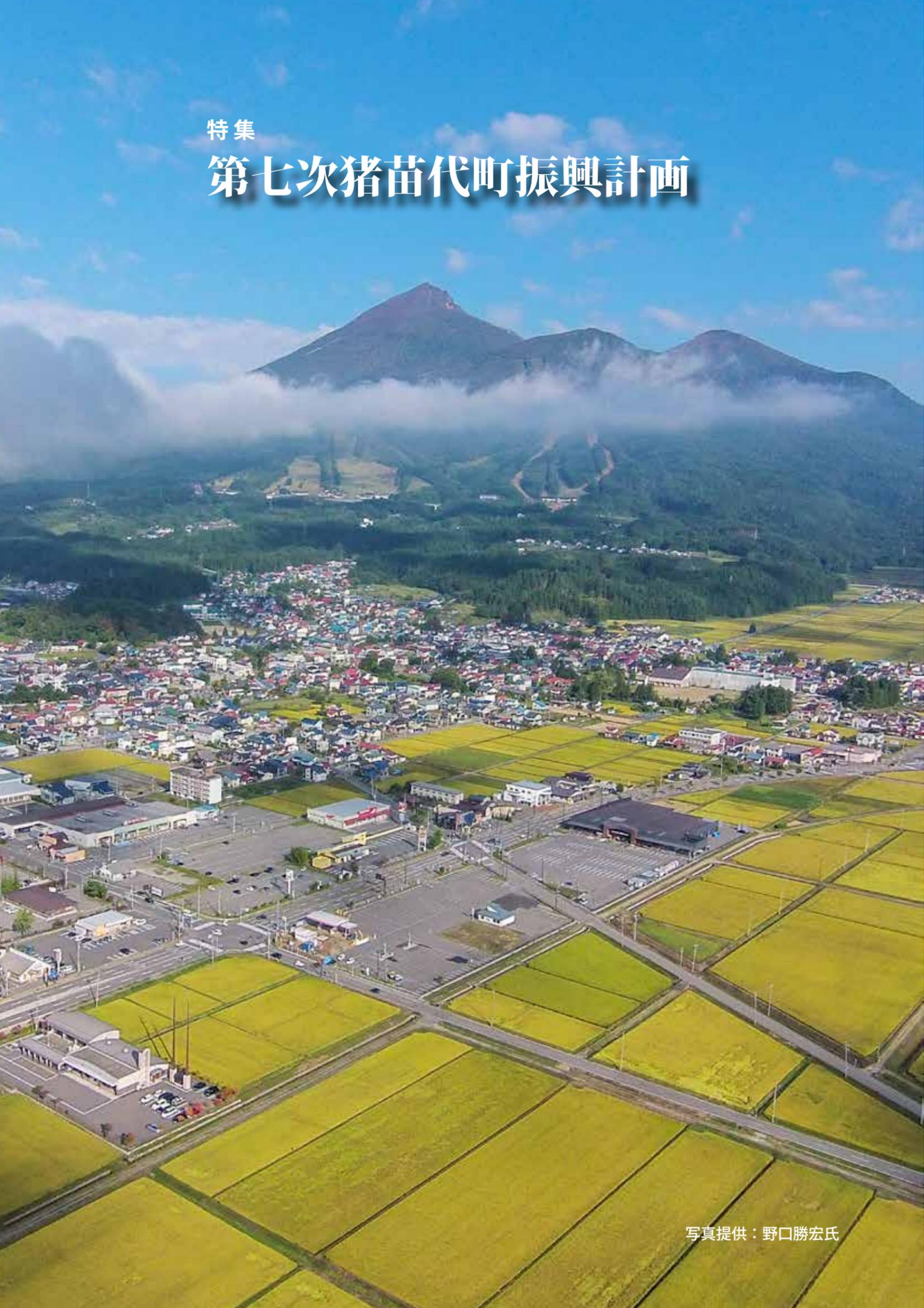


特集

第七次猪苗代町振興計画



写真提供：野口勝宏氏



講演する新城理事長

Pick Up

今月のイベント

小林栄顕彰会が設立

野口英世博士の恩師として知られる小林栄先生の功績をたたえる「小林栄顕彰会」の設立総会は3月5日、野口英世至誠館で開かれました。

昨年、小林栄生家の保存に向けた動きや小林先生が開いた猪苗代日新館開館100年などがきっかけとなり、有志による顕彰会設立準備会が組織され、会員を募集。同日までに約180人が顕彰会に参加しました。

設立総会には約70人が出席し、設立準備会代表で末廣酒造社長の新城猪之吉さん(会津若松市)を理事長に選出しました。新年度の事業として、講演会や演奏会、企画展などを開催することが承認されました。また、町内の小・中学生に向けて、小林先生の功績を紹介する小冊子を製作する予定です。

総会後、新城理事長が小林家と新城家のゆかりや歴史について講演しました。また、レコードに録音された晩年の小林先生の肉声が初公開されました。小林先生は約17分間にわたって野口博士の生涯などを語り、博士の功績をたたえていました。

主な役員は次のとおりです(敬称略)。

- ▽理事長 新城猪之吉
- ▽副理事長 坂直孝、鬼多見賢
- ▽専務理事 小楡山六郎
- ▽監事 五十嵐憲雄、小林光子

まちの応援マガジン いなわしろ

広報猪苗代

Apr.2017
4
No.678



【撮影日】3月17日
【撮影場所】さくらこども園

今月の表紙

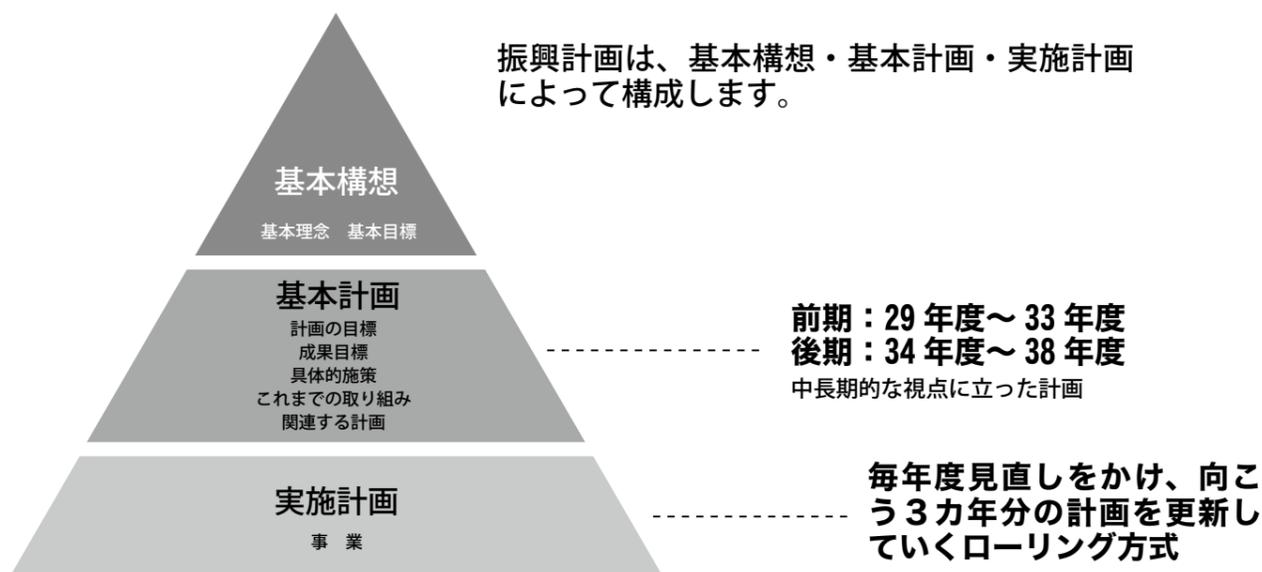
さくらこども園修了証書授与式で園長先生から修了証を受ける古内駿 多くん。4月からはピカピカの1年生。壇上での表情はすっかりお兄さんですね。(関連12ページ)

Contents — 【目次】

- 02 PICK UP
- 03 特集 第七次猪苗代町振興計画
- 10 平成29年度予算
- 12 写真特集 卒業・卒園
- 14 まちのわだい
- 16 笑顔でこんにちは／はじまりの美術館企画展
- 17 平成27年度町有施設の温室効果ガス(二酸化炭素)排出量を公表します
- 18 いなわしろタウンページ
- 22 暮らしの情報広場
- 24 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー

◆第七次猪苗代町振興計画の構成

基本理念 「ともに地域を育て、みんなが心地よく暮らせるまち 猪苗代」



振興計画は、基本構想・基本計画・実施計画によって構成します。

前期：29年度～33年度
後期：34年度～38年度
中長期的な視点に立った計画

毎年度見直しをかけ、向こう3カ年分の計画を更新していくローリング方式

●基本理念を実現するため、5つの分野の基本目標を定め、計画的なまちづくりを進めます。

1. 安全・安心を肌で感じる。	【目標の概要】 (1) まちの基盤づくり (2) 安全・安心のまちづくり (3) きめ細やかな子育て支援 (4) 福祉と健康のまちづくり
2. 豊かな自然を活かしきる。	【目標の概要】 (1) 観光まちづくりの推進 (2) 地域産業の振興 (3) 自然資源の保全と活用
3. いつまでも猪苗代に暮らす。	【目標の概要】 (1) 魅力的なライフスタイルの実現 (2) 地域文化を基盤とした交流 (3) 生涯学習の推進
4. 人をつくる。そして、まちをつくる。	【目標の概要】 (1) 地域を担う人材の育成 (2) 教育の充実
5. 協働により、みらいをひらく。	【目標の概要】 (1) 新しい時代の行財政運営 (2) 住民参加の推進

新しい町の羅針盤を策定

平成29年4月より

今後10年間のまちづくりの指針となる
第七次猪苗代町振興計画がスタートしました

振興計画の位置づけ

振興計画は、本町の長期的なまちづくりの方向性を示すもので、町の最上位計画に位置づけられます。町では、昭和44年の「第一次猪苗代町振興計画」から6回にわたって計画を策定し、これらの計画に基づき総合的な行政運営を行ってきました。

平成19年度から実施してきた「第六次猪苗代町振興計画」が、平成28年度に期間満了を迎えるにあたり、前計画の理念を継承しつつ、社会情勢の変化などの外的要因や人口減少などの内的要因の検証を行い、今後の10年間のまちづくりを進めるため、「第七次猪苗代町振興計画」を策定しました。

計画策定の背景

また、本計画は、平成28年3月に策定した「猪苗代町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」を踏まえ、内容の整合性を図っています。

前計画では、基本理念を「豊かな自然とすべての命を大切にする活気あるまちづくり」とし、町の将来像を「人が、自然が、歴史と文化が、そして未来が輝く猪苗代」として掲げ、計画の実現を進めてきました。これまでの振興計画策定にあたっては、地方自治法により市町村に議会の議決が定められていますが、平成23年の「地方自治法の一部を改正する法律」

まちづくりの基本理念

本町においては、長期的なまちづくりの方向性を示すため、引き続き振興計画を策定するものとし、町民ワークショップ（いなわしろみらい会議）や猪苗代町振興計画審議会などにより町民の意見を取り入れ、町議会で議論、議決を経て本計画を策定しています。

まちづくりの基本理念は「ともに地域を育て、みんなが心地よく暮らせるまち 猪苗代」です。少子高齢化と人口減少が同時に進行するなか、町では、行政と町民の協働や町民による地域資源の再発見・活用に向けた動きが進んでおり、自らをまちづくりの担い手として地域をともに育てるという意識が高まっています。今後も、町民一人一人が手を取り、立ち向かうべきさまざまな



いなわしろみらい会議の様子

な課題を解決するため、自然や産業、未来を担う人材などをもに育てる取り組みを進めます。さらに、まちの将来について考え、自由に意見交換を行える場づくりを進めることで、多様化するニーズを的確に把握し、施策に反映していくための体制づくりを推進します。これらの取り組みにより、あらゆる年代・立場の人たちが、「猪苗代町に住んでみたい」「いつまでも住み続けたい」という希望を持ち、猪苗代町を訪れる人たちが充実して過ごせるようなまちを目指します。その中で、町民同士、町民と来訪者、生産者と消費者などのつながりを深め、人と人、人とまちへ広がる多様な関係性を築くことで、さらに地域の魅力を輝かせ、みんなが心地よく暮らせるまちをつくりまします。

5つの基本目標

基本理念を実現するための5つの基本目標について紹介します。

①安全・安心を肌で感じる。

町民生活の基本的条件は、安全・安心です。安全・安心を感じるためには、基盤となる生活環境・交通の整備、子育て支援の充実、災害予防と災害対応の強化、福祉サービスの充実と心身の健康が求められます。社会情勢の変化が激しい時代に、この目標を掲げることで、その価値を見直し、町民生活の基盤を強固なものにすることで、安全・安心を肌で感じることのできるまちを目指します。

キデマンド型乗り合いタクシーを運行し、交通空白地域の解消を図ります。



交通空白地域を解消するためのデマンド型乗り合いタクシー

●防災拠点施設等の整備

○防災拠点施設やヘリポートを整備するとともに、災害対応用備蓄物資の充実を図ります。

●子育ての支援

○安心して妊娠、出産するための対応や育児に対する不安を軽減するため、乳幼児家庭全戸訪問に努めます。

●介護予防事業の推進

○介護予防や運動の必要性について周知するとともに、住民主体による通いの場づくりを推進します。

②豊かな自然を活かす。

本町は、自然豊かなまちです。この自然を活かし、農業や観光をはじめとするさまざまな産業が息づいてきました。少子高齢化と人口減少が進行する現代においては、磐梯山・猪苗代湖・広い田園地帯に代表される自然を保全しつつ、農業・商業・工業・観光産業の振興やまちづくりのために、これまで以上に本町の豊かな自然資源を活用する知恵と実行力が必要です。豊かな自然を産業の振興などへ「活かしかきる」仕組みづくりの構築を目指します。

【具体的な施策の例】

●地域資源を活用した観光振興
○地域資源の活用や新たな観光資源の開発を進め、町内の観光施設や飲食店などへの集客を図ります。

○日本遺産を活用した新たな観光資源の開発を進め、地域経済の活性化を図ります。

●インバウンド対策の充実

○東京オリンピック、パラリンピックの開催を見据え、震災後低迷している外国人旅行者の回復を図り、地域経済の活性化に

つなげます。

●担い手育成・地域営農生産活動の推進

○新たに就農する就農者を認定新規就農者として認定し、就農相談活動を行い、農業生産の担い手の育成・支援を推進します。

●農産物のブランド化・6次産業化

○猪苗代の気候に合った品種の導入を図り、「いなわしろブランド」を創出して高付加価値化を目指します。

○認定農畜産物や産品・加工品・メニューなどの開発を推進し、町内産農畜産物等の消費量増加や高付加価値化を図ります。

○農産物に精通した人材を育成するとともに、ふるさと納税や食味向上など、「米(いなわしろ天のつぶ)」や「そば(いなわしろ天の香)」を始めとしたブランド化・競争力の強化を推進します。



いなわしろ天のつぶ

③いつまでも猪苗代に暮らす。

本町における移住・定住を促進するためには、誰もが住みたいと思える魅力的な暮らしを実現することが重要です。例えば、本町では平日は磐梯山を眺め通勤・通学ができ、休日は豊かな自然を活かしたレジャーを楽しむことができます。食や文化に代表される町の地域資源を活かし、誰にとっても魅力を感じられる暮らしを実現するため、生涯学習や地域文化の交流などを推進し、いつまでも猪苗代に暮らす人の増加を目指します。

【具体的な施策の例】

●魅力的なライフスタイルの実現

○平日は郡山市・会津若松市等へ通勤し、休日は自然・温泉・スポーツなどを楽しむ魅力的なライフスタイルをPRします。

●学習機会と情報の提供

○町民がいつでも、どこでも、誰でも、何でも学習できる環境と機会を提供していきます。

●生涯学習活動の普及充実

○生涯学習の推進を総合的かつ計画的に実施するため、猪苗代

町生涯学習推進計画を策定します。

○大学などの学部、学科、ゼミなどの機能の誘致を目指し、猪苗代町ならではの学びの機会を提供するとともに、大学等との連携を図ります。

●町民を対象にした各種大会等の充実

○恒例のスポーツイベントとなった町民健康マラソン大会、町民球技大会、町民大運動会、ニュースポーツフェスティバルを参加者の体力などに柔軟に対応しながら、引き続き実施します。



町民運動会

④人をつくる。そして、まちをつくる。

まちづくりは、人づくりです。そして、人がまちをつくりまします。人づくりのためには、これまで

取り組んできた教育を充実させる一方で、民間団体などとともにさまざまな主体との連携による学びが求められます。本町で取り組んでいる学びを内外に発信し、人材の育成を行うことで、まちを活性化させます。教育を通じ、本町の未来を担う人材の輩出を目指します。

【具体的な施策の例】

●学校等との連携

○幼児教育から成人教育までの町ならではの一貫した教育モデルを構築するため、東京学芸大学と地域連携し、教育の充実および発展を推進します。



東京学芸大学との連携

●国際理解を深める事業の充実と人材育成

○東京オリンピック・パラリンピックでは、ガバナ共和国のホストタウンとなっていることを踏まえ、町国際交流協会等と連携し、町民主体で多様な交流に

発展できるよう、育成強化に努めます。

⑤協働により、みらいをひらいて。

未来あるまちづくりのためには、これまで唱えられてきた官民連携だけではなく、民間同士といった多様な連携が必要となります。官民・市民の連携の輪を広げることが、住民参加を推進させ、結果としてまち全体の協働へとつながります。協働を突破口とし、行財政運営などの課題にあたることで、持続可能な未来あるまちづくりの一層の推進を目指します。

【具体的な施策の例】

●協働による開かれたまちづくりの推進

○ワークショップや意見交換会を活発に行い、誰もが積極的にまちづくりを考える場づくりを進め、開かれた町政の推進を図ります。

○「町政出前講座」を開催して、地域住民の意見・要望を把握し、広聴活動の充実を図ります。

※「第七次猪苗代町振興計画」は、町ホームページでご覧いただけます。



【Voice】

協働により地域を活性化
町を元気に

かずたか
西村 和貴さん

中の沢



【Voice】

安心して暮らせる
まちづくりを

かずし
鈴木 一史さん

川桁

町商工会青年部では、「いなわしろ軽便ウオーク～懐かしの沼尻軽便鉄道を訪ねて～」を毎年開催してきました。沼尻鉱山と軽便鉄道を語り継ぐ会事務局の安部なかせさんと「町の大切な遺産を活用しながら、少しでも活気ある元気な町にしたいですね」と話し合っています。

私は、「いなわしろみらい会議」に参加したときに初めて、第六次猪苗代町振興計画のことを知りました。ワークショップの中で、参加メンバーと10年先の未来について話し合いました。人口減少が急速に進んでいるという課題に直面していることを思い知らされました。マンパワーが弱まると、さまざまなことに影響が出てくるのが予想されます。そのためにも、住民同士や住民と行政が協力してまちづくりを進める「協働」が重要になってくると思います。商工会青年部としても、観音寺川桜並木のライトアップなどを実施して、地域の活性化につなげられるよう取り組んでいきたいです。

「安全・安心を肌で感じるまちづくり」の一つとして、消防団の存在が挙げられると思います。私が所属している町消防団5分団では、日ごろの予防消防に加え、毎年開催されているポンプ操法大会にも熱心に取り組んでいます。しかしポンプ操法の練習など、負担に感じることもあります。そこで、大会に向けて、選手だけでなく分団全体で雰囲気盛り上げるため、団員同士の日ごろの会話を大切にするように心がけています。

6年前の東日本大震災発生当時、私は配達の仕事のため、翁島地区をトラックで走行していました。近くに一人暮らしの高齢者世帯があるのを思い出し、「婆ちゃん、大丈夫だったがよ」と声掛けをしたところ、不安そうな表情でしたが「大丈夫だよ、ありがとう」と返事が返ってきました。

何気ない普段の会話や声掛けが、安心して暮らせるまちづくりの第一歩になるのかもしれない。

あらゆる世代の方々が「猪苗代に住んでみたい」、「いつまでも猪苗代に住み続けたい」という希望が持てるまちづくりを目指します。

山と湖が織りなす雄大で美しい自然に囲まれた本町では、古くから農林業が盛んに営まれ、生活の礎が築かれてきました。近年においては、スキー場をはじめとするレジャー施設が整備され、「農業と観光のまち」として発展してまいりました。

また本町は、世界的に有名な「野口英世博士」の生家記念館、会津藩主松平家初代の保科正之公を祀る土津神社、亀ヶ城の雅称で親しまれている猪苗代城跡など多くの名所旧跡を有する歴史と文化のまちとしても広く知られています。

しかしながら、本町においても全国の例と同様に、少子高齢化・人口減少が進んでおり、今後もこの傾向が続くと予測され、地域の産業や経済に与える影響が懸念されるところです。

このような状況のなか、現在の『第六次猪苗代町振興計画』



前後 公 猪苗代町長

が目標年次を迎えるため、平成29年4月から新しくスタートする『第七次猪苗代町振興計画』を策定いたしました。『第七次猪苗代町振興計画』では、『ともに地域を育て、みんなが心地よく暮らせるまち 猪苗代』を基本理念として、これから10年間のまちづくりを進めてまいります。

あらゆる世代の方々が「猪苗代に住んでみたい」、「いつまでも猪苗代に住み続けたい」という希望が持てるまちづくり、さらには猪苗代を訪れる方々が充実した時間を過ごせるような魅力あるまちづくりを目指してまいります。

そのためには、行政だけでなく、町民と行政がともに地域を育て、協働によりまちをつくるのが重要であると考えておりますので、今後とも皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

町民の皆さんから寄せられたご意見 ～パブリックコメントを紹介します～

町では、第七次猪苗代町振興計画(案)に対する町民の皆さんからのご意見(パブリックコメント)を募集しました。頂いたご意見に対する町の考え方は次のとおりです。

●募集期間 平成29年2月6日(月)～2月17日(金)

●ご意見の総数 5件

	ご意見の趣旨	町の考え方
1	道の駅を拠点とした観光のモデルケースとして案内板などを設置し、PRを行ってほしい。	基本計画第2章2-1「(2)道の駅を拠点としたまちづくりの推進」にとりまとめたように、道の駅とまちなかの観光ポイントの連携を強化し、観光周遊の推進を図ります。
2	日本遺産の登録もあり、個人・団体が観光を希望する場合の対応やPRのため、案内説明文などの設置を希望する。	観光案内の具体的な手法について、実施計画を策定する際の参考とさせていただき、実現性について検討します。
3	緑豊かで心身ともに健康なまちを目指し、少ない本数から苗木が手に入る環境を整え、家庭での植樹や駅前の緑化、建築材の植林などを推進してはどうか。	基本計画第3章3-1「(1)緑の創造」にとりまとめたように、全町的な緑化活動の展開、花と緑のあふれた住環境の形成に基づき、具体的な緑化の推進手法について、実施計画を策定する際の参考とさせていただきます。
4	町内の周遊、移動について、歩道や自転車専用道路を整備し、散策やランニングを安全に行えるようにしていただきたい。 観光客向けの移動手段(自転車の貸し出しやコース別のマイクロバス)や車での移動が難しい高齢者に必要な移動手段、また食材の移動販売などについて検討してはどうか。	基本計画第1章1-1「(2)道路・交通の再構築」において、道路の安全性・利便性の向上を図るため、歩道の確保などについて実施計画を策定する際に内容を検討します。 成果目標としてレンタサイクルの利用者数増加を掲げながら、デマンド型乗合タクシーの運行を継続し、人口減少社会の実情に合わせた適切な移動手段の確保について今後の計画で検討します。
5	廃校をスポーツ合宿の場や専門学校・分校として利活用するなど、まちに若者が戻ってくるきっかけや人材を育て、まちを活性化する場として活用していけたらよい。また、まちのさまざまな人材が活躍できる場として、学びいなりや和みいなりを提供していただきたい。	基本計画第5章5-1「(2)効率的な行財政運営」でとりまとめたように、廃校の利活用については、町民の皆様のニーズを把握しながら引き続き検討します。 基本計画第3章3-3「生涯学習の推進」において、さまざまな世代を対象とした活動の促進、生涯学習人材バンクを利用した活動の機会充実を図ります。